

12 「ひとめぼれ」・「コシヒカリ」を乾田直播栽培する上での留意事項

福島県農業試験場相馬支場・平成12年度農業試験場試験成績概要

1 部門名 水稻－水稻－水稻直播－作型・栽培型 分類コード 01－01－75180000

2 担当者 木田義信・半沢伸治

3 要 旨

乾田直播栽培の「ひとめぼれ」・「コシヒカリ」について生育特性について検討した。

(1) 出芽揃い期までに最も日数を要するのは、「ひとめぼれ」であった。

(2) 「ひとめぼれ」は苗立ち数の年次間差が大きい。また、春期低温年や早播すると出芽のバラツキが大きく、他の品種より目標苗立ち数の200本／㎡の安定的な確保が困難であった。

(3) 「コシヒカリ」は「ひとめぼれ」より感光性が強いいため、4月中旬と4月下旬播種で出穂期の差が無かった。また、「コシヒカリ」は4月中旬播種でも、冷夏年に安全出穂晩限(8月25日)を超える品種であった。

(4) 収量は高い順から、「はたじるし」>「まなむすめ」>「ひとめぼれ」>「コシヒカリ」で、「コシヒカリ」は収量の年次間差が大きかった。

(5) 等級は1.9mmで選別すると1～2段階向上するが、1.9mmと1.8mm選別の収量差は千粒重の大きい「はたじるし」・「まなむすめ」で小さく、千粒重の小さい「ひとめぼれ」・「コシヒカリ」で大きかった。

(6) 以上のことから、乾田直播栽培において、「ひとめぼれ」は出芽特性に難があり、「コシヒカリ」は、夏年に出穂期が安全出穂晩限を超えることが、乾田直播栽培をおこなう上での留意点として上げられる。

4 主な参考文献・資料

(1) 平成8～11年度春夏作試験成績概要(相馬支場)